

プログラミング入力し、ドローンを巧みに操縦する子どもら＝関市若草通、せきしんふれ愛アリーナ

関でプログラミング教室



来年度から小学校の授業でプログラミング学習が必修化されるのを前に、関市教育委員会などは20日、関市若草通のせきしんふれ愛アリーナで、小型ドローンを活用したプログラミング教室を開いた。市内の小中学生が楽しみながら、プログラミングに必要な論理的な思考を磨いた。

(富樫一平)

ドローン操縦面白い

児童、必修化前に体験

本年度、市が推進する理数系、プログラミング学習の総称「STEAM(スティーム)教育」の充実を図るため、昨夏のパソコンを活用した特別授業に続く企画。最終日の21日と合わせ、市内の小学5、6年生約120人が参加する。

指導したのは、ドローン操縦士養成スクール「ROBOZ」(郡上市美並町上田)の石田宏樹社長。冒頭、音楽に合わせてダンスするようプログラミングされたドローンのデモンストレーションを披露した。

子どもらも、ドローンの飛行ルートを事前にタブレット端末に入力し、数分先の小さなドローンを無事着陸できるかに挑戦。何度か失敗しても、相談しながら微修正を加え、正確なルートを導こうと頭をひねっていた。